

松阪市地域包括ケア推進のための 第16回 多職種勉強会

多職種で“くみとる”ACP

～大切な想いをわかちあうために～

令和4年8月31日(水)オンライン開催



松阪市では、介護と医療に関わる様々な職種の方たちが顔の見える関係を深め、地域包括ケアを推進していこうと、平成26年より勉強会を開催しています。

第16回目の今回は、ACPをテーマに、利用者(患者)さんやその家族・関係者の想いを多職種がどのようにくみとり、わかちあうことができるかを考えるきっかけとして、現場の実態や事例、専門職の想いを通して学ぶ機会を作りました。

各専門職が、今回の学びを生かし、日々の支援に臨まれることと思います。



〔話題提供〕

済生会松阪総合病院 医療ソーシャルワーカー 奥村 裕司 氏
嘉祥苑訪問看護ステーション 管理者 杉平 由美 氏

◎奥村氏より

今回、勉強会に先がけて松阪地域内の病院に、「コロナ禍と退院時の連携に関すること」や「リモート面会の実態」など質問をさせていただきました。

コロナ禍前までは、入院中の患者さんや関係者、病院職員に直接会って、ご本人の状態やお気持ちをうかがったり、退院に向けての相談をすることができていましたが、現在は様々な配慮が必要で、思うようにコミュニケーションがはかれない実態があります。

しかし、そんな状況であっても、専門職同士が工夫をしながら意思疎通をはかり、今後もよりよい支援に努めていきたいというお気持ちをうかがうことができました。

◎杉平氏より

訪問看護としての事例を3例紹介させていただきました。

現場では、必ずしもうまくいくことばかりではありません。

ご本人やご家族の想い自体が異なる場合もありますし、望をかなえるための環境や知識、技術などが十分とは限らない中で、できるだけご本人やご家族に心残りがないように支援をされているお話をうかがうことができました。

勉強会当日、急なご都合でご登場いただけませんでした。ご用意いただいていた事例を代理の方に紹介させていただきました。



参加者の感想(アンケートより原文のまま)

ACP のタイミングが印象に残りました。最近自分自身が家族のことで ACP をしたため他職種での情報交換も大切だと思いました。

〔薬剤師〕

ACP について利用者さんや家族さんに合わせて対応を変えていきたいと感じました。

〔理学療法士〕

ACP のタイミングについて、この勉強会だけでも多くの意見があった。多様性を認め支援者として働きかけやすいタイミング等をこれから考えていきたい。

〔医療ソーシャルワーカー〕



早い段階で本人の意思を尊重しながら ACP を進めていくことが大切だと思いました。コロナ禍での家族、利用者両者の意思をくみ取るのは困難な事がありますが、色々な方法で（オンライン開催等）意思疎通をはかっていけたらと思います。

〔介護支援専門員〕

ACP については各病院、事業所で取り組み方について検討などをされてきたと思いますが、他の機関がどのような視点でどのように行っているのかを知ることができたのは大変勉強となりました。〔看護師〕

久しぶりのリモート勉強会でしたが、松阪地区に新たにいらした Dr のお顔や元気そうなみなさんの様子がみれて良かったです。又、自分と同じようにコロナ禍で苦労されながら仕事をされていることがわかり、心強かったです。

〔社会福祉士〕

◎松阪地域の地域包括ケア推進のため、

これからもご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

事務局：松阪地域 在宅医療・介護連携拠点 ☎ 25-3070 FAX 25-3071

松阪市健康福祉部高齢者支援課 ☎ 53-4099 FAX 26-4035

